

北海道駒ヶ岳

○地磁気全磁力

北海道大学では、従来より北海道駒ヶ岳の全磁力連続観測を行ってきたが、これまでのところ火山活動に伴う顕著な変化は記録されていない。しかし、既設の磁気点は山頂から遠く、最も近い磁気点 (K01) でも火口から約700mの距離があったため、火口の地下浅部で起こる小規模な変化は捉えられていない可能性があった。そこで、2006年から山頂火口原内 (K05) にもプロトン磁力計を設置し、現地収録方式ではあるが観測体制を強化した。データも蓄積されてきたので、今般序報として2007年9月までの結果についてまとめる。これまでのところ、山頂火口に最も近いK05においても有意な変動を認めないことから、火口付近の浅部で顕著な温度変化は起こっていないものと思われる。なお、K02およびK03において10月から12月期にみられる僅かなトレンドは、年周変化の一部である可能性が高い。

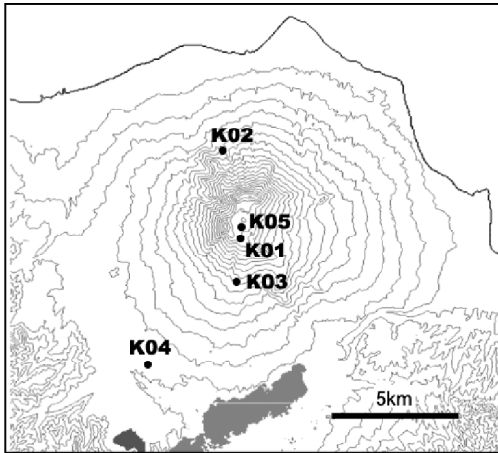


図1 駒ヶ岳周辺の全磁力連続観測点の配置

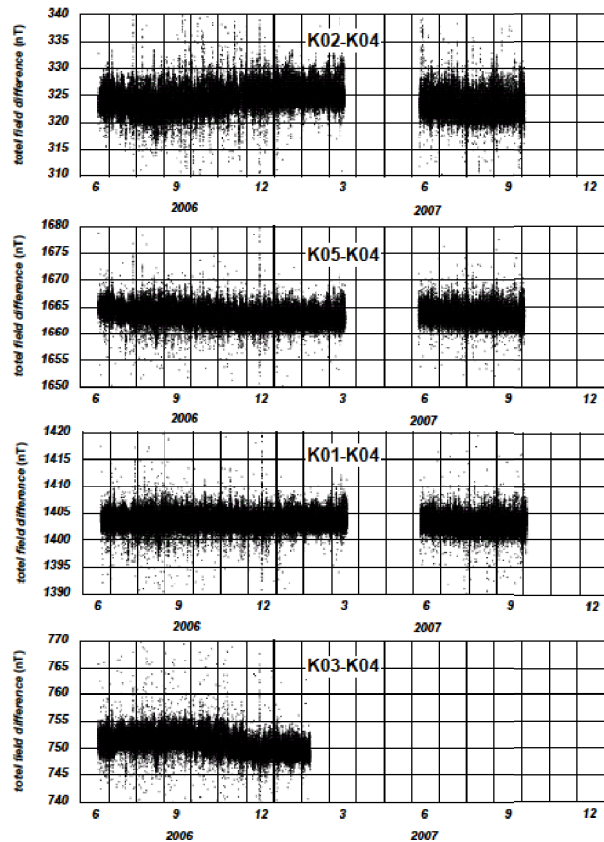


図2 2006年6月～2007年9月の全磁力変化。K04を基準とした5分値単純差でプロット。

(橋本・鈴木・茂木)